

「Harmony」では、大原綜合病院と連携していただいている医療機関をご紹介します。  
前回到引き続き、当院と契約をしている連携介護機関、聖・オリーブの郷をご紹介します。

～地域に密着した介護施設を多数展開、これからの地域包括ケアシステムを担う事業所～

## 介護老人保健施設 聖・オリーブの郷（本館・東館）



※ 第1回 「聖オリーブの郷・大原綜合病院 合同連携会議」の様子（平成26年12月26日）

### — 介護老人保健施設の現状はどのようになっていますか —

年々、医療依存度が高くなってきています。例えば、四肢の拘縮や痰の吸引が頻回に必要な利用者が増加しています。以前には、一日20回も吸引が必要な利用者もありました。介護老人保健施設は、医療材料が持ち出しとなります。医療依存度が高くなれば、当然施設経営にも大きな影響を与えますので、病院連携を深め施設での医療提供を整えていければと思います。

一方、家族背景の複雑化や老々介護の事例が増えているのも事実ですので、支援方法や関わり方も個性が求められています。

介護老人保健施設とは、在宅復帰の施設です。そのためには、これまでは利用者本人にフォーカスしてきましたが今後は、家庭全体を含めた支援に変化しています。



菅野 重雄さん（事務部長）

### — 在宅復帰のためには、具体的にどのように取り組んでいますか —

特に生活リハビリに重点化をしています。セラピストが行うリハビリもそうで

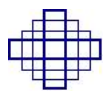
すが、介護職が今後の生活を見据えた中で、日々の支援に取り組んでいただいています。例えば退所前訪問を必ず行い、利用者本人も同行をお願いしながら、実際に自宅で生活した場合を想定した中でリハビリを提供しています。ゴールは在宅復帰ですので、多職種が共通認識のもと関わっています。介護職なら生活の支援、看護師なら服薬方法や吸引、リハビリは生活動作等、それぞれの専門性を持って支援します。



平塚 千鶴子さん（副施設長・看護師長）

### — 大原綜合病院との連携で問題点等がありますか —

介護老人保健施設は、入院となればその方のベッドをどこまで確保したら良いか調整に苦慮します。そこで重要なのは日々の情報共有ですが、大原綜合病院からは随時患者情報を頂いているので非常に助かっています。こちらも週末の飛び込み受診や夜間の



緊急受診が起きないよう、日々看護観察を行っていますが絶対に無いとは言い切れません。そのような際にも大原綜合病院や大原医療センターには、確実に受け入れをしていただき、こちらもありがたいと思っています。当施設は病院が無いのでその点からも、今後も大原綜合病院と大原医療センターとは、連携を深めていきたいです。

— 介護老人保健施設から見た地域包括ケアシステムとは何ですか —

地域包括ケアシステムの中で介護老人保健施設の役割は、在宅復帰と地域での生活を支えることです。現在、在宅復帰というのは「自宅での主介護者」がいることが前提になっていますが、年々主介護者が不在の事例が増えてきています。印象としまして、全体の3割が老々介護、3割が主介護者不在、残り1割で主介護者がいるような現状です。現在は様々な機能を備えた介護事業所や施設がありますが、介護職不足もあり機能していないのも現状です。利用者にとって、どの介護サービスが適しているのか。それらを真剣に考えていかないと、いけないと感じます。病院もそうですが、介護も現場が全てです。現場から必要なサービスを自分達で作りに上げていくという方法が、望ましいと思っています。そして、医療についても学ばなければ病院と円滑な連携を図ることは困難です。そのためにも、大原綜合病院と連携を図りながら利用者の情報共有、相互の勉強会、職員同士の交流等を図ってゆきたいと思います。

—今回でオリーブの郷（本館・東館）のご紹介は終了となります。—



大原綜合病院 第4回 地域と病院をつなげる会 開催

平成27年2月18日（水）、「第4回地域と病院をつなげる会」を大原綜合病院別館5階食堂で開催いたしました。

福島市中央地域の医療機関、介護保険関連事業所、調剤薬局、福島市長寿福祉課、福島市中央地域包括支援センター職員の皆様と、大原綜合病院職員（医師・看護師・薬剤師・PT・ST・事務・MSW）の総勢70名に参加いただきました。

今回は、ケアプランセンターらこぼ、管理者・加藤章子氏、すこやかラコパ施設長・山内美津子氏へ講演を依頼し、「介護支援専門員の役割と医療・介護の連携」と題して、事例やケアプラン、ご家族の声を盛り込みながらご説明いただきました。関係者同士の顔が見える関係作りを目的に、講演後には5~6名のグループに分かれ「連携を行うための苦労や工夫」について、他職種で意見交換しました。会終了後も時間を惜しむように話し合っているグループも見受けられました。来年度も年間2回の開催を予定しています。

